

20年後の静岡の建設産業、 どうなる、どうなる？

静岡理工科大学は2017年4月、静岡県で初めて建築学科を新設しました。そこで今回は、静岡理工科大学、静岡県立静岡農業高等学校、静岡県立科学技術高等学校で建設関連の学科を担当する教育者の皆様にお集まりいただき、20年後の静岡が夢のあるまちになるには教育界と建設産業がどのように連携すべきかを、建設部会の役員と話しあっていただきました。

(文責・企画広報室)



司会

建設部会 副部会長

企業組合
針谷建築事務所
相談役
高田雅司さん

静岡県立科学技術
高等学校
教諭
坂本巧さん

出席者 (写真順)

静岡理工科大学
教授
丸田誠さん

静岡県立静岡農業
高等学校
教諭
西村和久さん

建設部会 副部会長

第一建設(株)
代表取締役社長
市川照さん

建設産業への就職率は 年々高まっている

市川 全国の現場で働いている技能労働者の人数は1997年の455万人をピークに減少し、2016年は326万人。このうち55歳以上は110万7千人で前年比1万2千人減、29歳以下は37万1千人(構成比11.4%)で前年比1万4千人増となりました。

静岡県における建設産業の事業所数と従業者数は、1996年の2万3337事業所、15万9176人に対して、2014年は1万8591事業所、10万9979人へと減少しています。

これが建設産業の現状ですが、皆様の学校では、何人の学生が建設産業に就職していますか？

西村 静岡農業高校では、農業土木を勉強する生徒は環境科学科の環境土木系列に所属しています。環境土木系列の過去3年間の系列に従事した進路を見ると、建設産業には20〜30%、静岡市役所には10%、進学は10%です。ここ数年で建設産業への就職率は増えてきていますが、環

境土木系列の生徒の50%以上が建設産業に就職することを目標にしています。

坂本 科学技術高校・都市基盤工学科のこれまでの卒業生360名のうち、就職者は74%。そのうち建設産業への就職者は開校当初は約40〜60%でしたが、年々増えて、2016年は就職者28名のうち26名が建設産業に就職し、建設産業への就職率は93%になりました。

産学官の連携事業として、2年生全員が建設産業のインターンシップに参加し、出前授業や現場見学等を経験することで、建設産業に対する関心が高まり、進路の決定に有効に働いています。



静岡県立科学技術高等学校
教諭

坂本巧さん

誰もが安心・安全に暮らせるまちを実現する
使命を伝えています。

丸田 人口370万人の静岡県の大学に建築学科がないので、数年前から建築学科を新設する準備を進め、今年68名の1年生を迎えました。そのうち65名は静岡県の出身で、11名は女性です。現状では学生の9割は住宅の設計を志し、静岡で就職したいと考えています。産業界と行政からの期待もありますので、地元の建設産業を盛り上げる一翼を担っていきたいと考えています。

高田 建設産業への就職は、需要と供給の関係に左右されます。バブル崩壊の翌年